第481号 昭和60年 7 月 20 日発行（毎月 20 日発行）
昭 和 46 年 8 月 31 日 第三種郵便物認可

1985 年（昭和 60 年）
7 月 号（No. 481）
社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club
定価一部 150 円

目　次

日本山岳会昭和六十年通常総会 ……（1）
第16回山岳図書を語る夕べ
「山書収集の楽しみ」（小谷隆一氏）（2）
創立八十周年記念晩餐会（仙台）
宮城支部　庄司駒男……（4）
晩餐会後の山行に参加して
宗實慶子……（5）
図書紹介 ……（5）
「入蔵日誌」「チベット滞在記」
スキー安全学会（松丸秀夫）……（6）
報告 ……（6）～（9）
自然保護委員会，医療委員会
フイルム委員会，科学研究委員会
秋田支部，北海道支部，静岡支部
会務報告・ルーム日誌・会員移動（9）（11）
八十周年第二次募金応募者ご芳名 …（9）
お知らせ ……（10）
「記念晩餐会（富山）」「紅葉会案内」
「ビアパーティ」「八十周年記念行事関係」
「ドイツ劇映画『銀嶺に帰れ』上映予告」
昭和59年度収支決算書・財産目録（11,12）
昭和60年度予算書（案）……（13）
昭和59年度事業報告書 ……（14）
昭和60年度事業計画（案）……（15）
図書受入報告　図書委員会……（15）

▶日本山岳会事務取扱時間
月，火，木，土曜　10時～20時
水，金曜　13時～20時
日曜・祭日は休み
▶図書室開室時間
日曜・祝日・月曜を除く毎日
13時～20時

◉ルーム閉室のお知らせ

8月1日～8月31日

八十周年記念行事の展覧会開催のため，ルーム，談話室，図書室は使用できません。各委員会などで行事や会合を予定しているところはご注意下さい。なお，事務局は開いていますから連絡はとれます。

お知らせ電話 234六六五九

日本山岳会 昭和六十年通常総会

―新旧役員交替 新会長に今西寿雄氏―

就任の挨拶をする今西新会長

（社）日本山岳会の昭和六十年通常総会は、さる五月二十四日（金）午後六時より、新装なった私学会館（東京都千代田区九段北四―二―二五）の霧島の間で開催された。この総会では昭和五十九年度の事業報告並びに収支決算、昭和六十年度の事業計画及びそれに伴う予算案などが承認されるとともに、本年はまた新旧役員の交替期に当り新会長には今西寿雄氏、新副会長には大塚博美氏ほか多数の役員の交替が行なわれた。またそのほか、本年はとくに山田二郎副会長より創立八十周年記念事業の近況報告も行なわれ、なお、総会終了後は、引続いて恒例の懇親会が隣室で開催され、極めて盛会裡に総会の全式次第を終えた。

以下は総会と懇親会の内容の概要である。

総会の司会は総務担当のおなじみの神崎忠男常務理事。まず田口二郎副会長の開会の辞、ついでこの度退任する佐々会長の挨拶のあと本年はとくに本会創立八十周年記念行事が全国各地で行なわれているので、その中間報告を実行委員長である山田二郎副会長が行なった。それによれば八十周年記念行事は、登山、各種行事、記念集会、募金の四つの柱で進められているがいずれも順調で半ばを終えた。あと登山の部では新地域のキレン方面、カカサイジモンカ、更に黄河源流のトレッキングの企画を進めている。また記念行事については中村（純）評議員を中心に山岳記念品の展示（八月二十四日前後）や会員による絵画写真展（八月十九～二十三日）、記念ピッケルの作成などの計画が着々と進んでおり、記念集会では既に大阪、名古屋、福岡、仙台地区は終わり、今後は長岡、札幌、富山地区が相次いで行なわれることになっている。また全体の記念集会としては八月二十四日、椿山荘にて秩父宮妃殿下御臨席のもと開催されるほか、信濃支部によるウェストン祭も例年に倍して盛大にとり行なわれることになっている。それから募金については幸い全会員の協力により五月十日現在で目標の二千万円を七、七二三円突破し、このうち約一千万円を「基金」の方にまわせることとなり、これがひとつの核となり得るものと思うとの話があった。

ついで神崎理事が配布資料にもとづいて会務報告を行なった。その概要は現在最近の会員番号は九六五〇番台であり実在籍会員数四〇〇六名、なお昭和五十九年度の会員の異動は新入会員一五八名、復活会員七名、退会者二〇名、物故者一九名、除籍者六六名ということであった。

これに対し、本日の出席者一〇五名、委任出席者一五〇一名、計一六〇六名であり、定款三十三条

みんなで八十周年記念事業を成功させよう！

の在籍会員の1/3以上の定数を満たすものとして本総会の成立を宣言。なお本日の議事録の署名人は石橋正美、入澤郁夫両会員にお願いしたいと提案、了承された。

これより議事に入ったが、定款二十九条に従い佐々会長が議長となった。まず、一号議案である昭和五十九年度事業報告が大倉理事によって行なわれた。その内容は別掲の通りであり登山の指導と奨励に必要な各種集会、講習会及び展覧会などの開催、登山設備の改善、山岳遭難の予防と対策に関する指導、自然保護活動、海外登山と交流、交歓、機関誌の発行といった例年に増して多彩な事業が行なわれたことが報告され、全員拍手のもとに承認された。

第二号議案は昭和五十九年度収支決算、財産目録の報告であり、これは財務担当の西村理事が行なった。その内容も別掲の通りであるが、それを要約すると次の通りである。

昭和五十九年度の一般会計は当初三六七万円の赤字予算でスタートしたが、会費の納入が予想以上に順調であったため予算を三一三万円ほど上回わり、全体では五〇万円ほどの赤字にとどまり、結果としては収支ほぼ均衡ということになり、当初七九六万円の繰越予定が一、一一二万円ほども繰越すことが出来た。支出の部も大きく運営管理費、事業費にわけられるが、いずれもほぼ予算通りコントロールされた。

財産目録は昭和六十年三月三十一日現在のもので、基本財産八〇〇万円、現・預貯金二、五六一万円、建物および土地八、二三〇万円、図書（和・洋）七、二四二冊、什器備品四四二万円（購入価格）、絵画二三点、フィルム六二点、刊行物その他の棚卸高三九〇万円。長期借入金はあと八三五万円を残すのみとなり、これは六十三年一月完済の予定である。なお、八十周年記念事業収支もほぼ順調に行なわれている。

これに対し松田雄一監事より、以上を適正妥当と認める旨の監査結果が報告された。これについても全員拍手で承認する。

第三号議案の昭和六十年度事業計画案を大倉理事が説明。これについては昨年度同様、集会、研究会、自然保護活動、海外登山、交流など盛りだくさんの事業が計画、立案されている。とくに前年と変った点は本年度は八十周年記念行事として八月に記念式典が行なわれるため、恒例の年次晩餐会は行なわない予定であるが、これについては新執行部がどう扱うかということで、未定である。新しい海外登山としてはキレン山、そしてカカサイジモンカなどが計画されている。機関誌としては「山岳」「山」は例年通り刊行するが、「山日記」は装いを新たにして刊

第16回山岳図書を語る夕べ

山書収集の楽しみ

講師　小谷　隆一氏

第16回山岳図書を語る夕べが二月二日（土）午後三時より本会ルームに、『山と書物』の著者、小林義正さんの蔵書「高嶺文庫」をそっくり譲受けた、山岳図書コレクターの小谷隆一氏を招いて開かれた。氏は高嶺文庫入手後も単に私蔵するにとどまらず、より完璧なコレクションをめざし、極めて精力的にその拡充に努められている。今回はその高嶺文庫譲受けの経緯から管理・拡充等の話を含めて、ややもすれば自慢話になりがちな内容にも拘らず、そうしたニュアンスを全く感じさせることなく、淡々と実に爽やかに語って載いた。

話は氏の著書『山なみ帖』の「コレクターの悦び」を柱に、その後の収集状況等について進められた。活字で読んでさえ羨しい稀覯本の入手経緯や体裁・内容につき、時には実物を披露しながらの話には魅せられるものがあった。

以下はそのアウトラインである。

＊

山との出会い・本との出会い

旧制中学三年の時、森本次男先生に惹かれて山岳部に入った。そこで先生の『樹林の山旅』に出て来る二十ばかりの山行のうち六割方にお伴をすることが出来た。先生は常々「山は足で登るだけのものではない」という考えを持っておられ、山の本をよく読むようにと教えられた。その影響を受け、山に登りながら山の本を集めるようになった。高校は山に登るため旧制松本高校を選び、大学に入学してもすぐ山岳部に籍を置いた。山と本との出会いは、こうした学生時代に始まり、高嶺文庫継承に至る土壌が培われていたといえる。

一九六五年、カラコルムのディランに行ったが、頂上直下で引返さざるを得なくなった経緯は、同行の北杜夫によって『白きたおやかな峰』に書かれている。一九八〇年、八一年には中国のコングールへ行った。八〇年は偵察、八一年が本隊で、総隊長としてベースキャンプに着いた時は既に三名の優秀な隊員が頂上に向かっていたが、遂にそのまま帰らなかった。学生時代からの登山人生がこの悲劇的な登山で終ることは寂しいが、今は専ら山の本の方に力を入れようと考えている。

森本先生に師事したおかげで山の本が好きになり、昭和四十九年六月に小林義正さんの本を入手した時点で自分の蔵書が千二百冊ほどあった。しかし高嶺文庫を入手したことにより、それを完璧な山岳書コレクションにする責任を痛感し、以後本格的な収集活動を始めた。

外国の本について

年に二、三度ヨーロッパに行くのを機会にロンドンの本屋廻りが習慣となった。

最初に訪れたのはフランシス・エドワード。この本屋で何冊か珍しい本を入手した。今日持参した Joseph Wilson の A History of Mountains. がそのひとつで、一八〇七年、日本の文化年間の刊で、谷文晁の『名山図譜』やその改版の『日本名山図会』と同時代となる。全三巻だが、山の数は『名山図譜』の初版八十八山、重版以降八十九山に対し、ウィルソンの本は、日本を含む全世界に亘っており、中国の山だけでも数百は載っている。驚いたことにマッターホルンの高さがメートル換算で四、五〇五㍍とあり、その時代としての正確さに感心した。

エドワードで買った本で一番高価だったのは Albnis Beaumont の Travels through the Rhaetian Alps. という大判（四十六センチ）の本で当時七五〇ポンドした。この本について手元の本を調べて見ると、標高や年号に誤りが多く、旅程

図書委員会

行するなどであった。本件も全員拍手で承認された。

続いて第四号議案は、以上の事業計画の裏づけとしての予算案であるが、五十九年度収支決算と同様、西村理事が説明した。その詳細は別掲の通りであるが、その要点は、まず昭和六十年度の収入の部は、一七〇名の入会者を予定し入会金二五五万円を見込み、さらに前年度実績を勘案して会費の収入は二、五〇〇万円を計上。なお山日記の印税収入（前年度は五六万円）は本年度は計上しない。以上、収入は三、四四三万円、前年より五九万円多い予算である。支出については運営管理費、事業費その他総合計予算が三、八二七・四万円、前年度が三、七五一・三万円であったので七六・一万円ほど多いが、支部関係費、並びに名簿の作成費九〇万円などがあるためである。しかし財務は健全であり、会費の改正はしない。

以上に対し審議の結果、これも異議なく全員了承。

次は役員改選の件であるが、会長、副会長、理事、評議員、監事の候補者名（別掲）が大倉理事によって読み上げられ、全員異議なく拍手の中に了承された。その結果、新会長には、わが国初の八、〇〇〇㍍峰の経験者、マナスルの初登頂に輝く今西寿雄氏が、そして副会長には大塚博美氏ほか多くの役員が新任され、任期を終えた佐々会長並びに田口副会長ほか約半数の役員が退任することになった。

最後の議案は昭和六十年度の除籍対象者の名簿の発表であるが、これについては本年度は九三名もの対象者があり、該当紹介者や知人は本人に対し何らかの連絡をとって、できるだけその数を減らして欲しいとの要望とともに、静岡支部より、このことは事前に支部長に連絡して欲しいとの要望も出されて了承された。

その他の案件はなく、ここにすべての議事は無事終了したが、続いて恒例の新役員の紹介がなされ、ここで新役員を代表して今西新会長が大略次のような挨拶を行なった。

「この度はからずも会長の大役をお引き受けすることになりましたがよろしくお願い致します。私は七十歳であって、まだ自分の仕事の現役でありますが、極力頑張るつもりです。山岳会もこうして八十年の歴史をもっているわけで、幾多の先輩たちがいろんなレールを敷いてきました。私はそのレールの上に乗って進んで行くつもりです。どうか皆さまがたのご支援をいただき無事に任期を終えられるようにお願いいたします」

ここで神崎常務理事の若干の会務報告のあと、隣室に会場を移し恒例の懇親会が開催された。懇親

山をきれいに ゴミは持ち帰ろう

に日付さえ入らず紀行文の悪例だ、という酷評があった。にも拘わらずこの本には柔らかなタッチの惚れぼれするようなエッチングの絵が入っており、おそらくこの絵一枚が二万円位に相当するのではないかと思っている。ボーモントにはほかにフランスからイタリアへ、レポンティーヌ・アルプスを通っての旅行 Travels from France to Italy, through the Lepontine Alps. と、マリティーム・アルプスを通ってのイタリアからフランスへの紀行 Travels through the Maritime Alps, from Italy to Lyons. とがあり三部作となっている。前者はその後入手したが、後者は未だ入手していない。

名ガイド、クリスチャン・アルマーのガイド手帳の写真複写本もここで買った。三方金箔で二百部限定の一二四番であった。先輩成瀬岩雄さんがお見えになった時にこの本をご覧に入れると「わしが持っているのが日本で一冊きりかと思ったが、これで二冊になった」と微笑まれていた。さきほど会で買上げた成瀬さんの本を図書室で拝見したところ、成瀬さんのは五十五番であった。

高嶺文庫を充実させたいと考えている時にこれ等の本が手に入ると嬉しくなり、亡くなった小林義正さんにご報告したい気持になる。

エドワードの次に訪れたのは、アルパイン・ジャーナルの広告で昔から有名なガストン・アルパインブックス。

或る時、私の持っている洋書のリストを作り、そのコピーをガストンの主人ミスター・バウムに渡し「このリストにない本が出たら知らせて欲しい」と頼むと、じっと眺めていて「ここに載っている本を探すのか」と聞き返えすので「これは私が持っている本なのだ」と言うと、バウム氏は両手を広げて感嘆し「こんなに素晴しい本を持っているのか！」と言って私の蔵書を褒めてくれた。有名なガストンの親父さんが褒めてくれたということでその日一日嬉しかったが、その日は買う方が一冊もなかった。

また、或る人から教えてもらったが最近 Mountains of Books. という英国の通信販売店が非常にマメに目録を送ってくれ、時々注文している。ここで珍しい本を探した。Galton の The Art of Travel. で、この本は志賀重昂の『日本風景論』の種本になった本であり是非入手したいと方々の本屋に頼んでいたが、なかなか見つからず Mountains of Books. のカタログでようやく入手することが出来た。

日本の本について

高嶺文庫を譲受けた時『高山深谷』一揃だけは小林さんの希望で手元に残された。（後、日本山岳会に寄贈）しかし、『高山深谷』は何としても手に入れたいと考え悠久堂に頼んで入手することが出来た。ただ、残念ながら第一輯だけは写真が一、二葉あるだけで本としての体裁をなしていないものであった。二輯から八輯までが揃った今は、何としても一輯を入手したい。（もし第一輯を譲ってもいいという方がおられたら、氏が高価でお頒け戴きたいとのことです）

その後入手して一番嬉しかったのは『INAKA』という全十八冊の本だった。大正四年六甲山の麓に住むアメリカ人達が発刊した本で主催者はドーント。毎年一冊乃至二冊ずつ発行され一五〇部しか印刷されなかった。高嶺文庫には十八冊中の半分位しかなく是非揃えたいと願っていたところ、古本屋から揃いが出たと話があった。住友信託銀行の今村幸男さんの蔵書で、今村さんはドーントと大変親交があり、一巻目には注文書やドー

会の司会は高遠理事で、まず佐々前会長挨拶、今西新会長挨拶につづき、乾杯の音頭は堀田名誉会員で、なごやかなうちに開幕、懇談となった。席上、前役員の永年のご苦労に対し全員で感謝の拍手を贈った。懇親会の最後は島田名誉会員によって前役員への感謝と新執行部への期待をこめて萬歳三唱が行なわれ、昭和六十年通常総会の全行事は午後八時三十分をもって閉会となった。

出席者・順不同　佐藤一栄　小倉厚　岸田権二　田口二郎　太田晃介　岡田光行　岡沢祐吉　小林太刀夫　石坂久忠　村井米子　山本元　松田雄一　入澤郁夫　坂本正智　川合周　河村憲二　小倉茂暉　北島隆　白井雅己　小倉董子　岩堀瑞子　勝田房治　岩橋崇至　柴田篤志　安間荘　谷口現吉　宗實慶子　中村太郎　鴫原啓佑　大倉昌身　北博正　浜口欣一　田中弘美　平柳一郎　鈴木郭之　斎藤平七　井口正男　西沢健一　入谷浩右　片岡博　高遠宏　佐々木豊喜　小川務　今西寿雄　山田二郎　近藤信行　吉田宏　桑田結　山口英一　弥栄山岳会　関塚貞亨　鳥居亮　竹田寛次　田村俊介　吉武正子　吉澤一郎　平井吉夫　宇津力雄　梅野淑子　宮下秀樹　広羽清　堀田弥一　永井敬士　渡辺兵力　島田巽　佐々保雄　金山淳二　山本朋三郎　小原晴子　蒲生明登　松丸秀夫　金坂一郎　浜野正男　西村政晃　大橋晋　織内信彦　島田義昭　細井澄子　中村テル　大峰芳枝　長嶋正浩　南川金一　松家晋　越智英夫　神崎忠男　大森薫雄　村木冨士　新井陽一郎　河野成雄　藤井正彦　武田満子　竹中敏郎　沼倉寛二郎　石橋正美　絹川祥夫　橋本清　高田眞哉　川森左智子　田中茂　藤田礼子　本多勝一　田中茂夫　沖允人　阿部淳　木名瀬亘

（記録・小倉　厚／写真・松家　晋）

●理事・監事および評議員候補者

会長　今西寿雄（新任）、**副会長**　山田二郎（再任）、大塚博美（新）、**理事**　高遠　宏（再・総務及び科学研究委員会）、梅野淑子（再・婦人懇談会）、長谷川良典（再・指導委員会）、村木富士（再・学生部）、平井吉夫（再・山日記）、絹川祥夫（再・青年懇談会）、太田晃介（新・山研運営）、鴫原啓佑（新・総務）、鈴木郭之（新・海外）、大橋晋（新・図書、フィルム、書評）、松永敏郎（新・高所登山及び遭難対策）、橋本清（新・財務）、浜口欣一（新・医療）、大森久雄（新・山岳）、岡沢祐吉（新・会報）、新井陽一郎（新・集会）、関塚貞亨（新・自然保護）

監事　竹田寛次（再任）、金坂一郎（新任）

評議員　伊藤紀克、村山雅美、渡辺兵力、山口節子、中村純二、宮下秀樹、小西政継、吉田　宏（以上再任）、田口二郎、望月達夫、織内信彦、越智英夫、松田雄一、近藤信行、宗實慶子、大森薫雄、中世古隆司、田中弘美、安間荘、佐々木豊喜（以上新任）

日本山岳会創立八十周年記念晩餐会（仙台）

宮城支部　庄司　駒男

けやきの新緑が映える仙台で岩手、秋田、山形、福島、宮城の東北五支部による八十周年記念晩餐会が五月十一日（土）ホテル仙台プラザの松島南の間で盛大に開催された。晩餐会に先だち午後二時三十分から記念講演がはじまった。会場となった斉藤報恩館（ホテル仙台プラザ隣）に佐々会長はじめ山好きの市民も交って会場入口に展示されたカンチェンジュンガのパネルと特別展示した「山内ピッケル」の前に集う。講演会は、宮城支部の高橋二義会員の司会ではじまり、中島福島支部長の開演挨拶に続いてJACエベレスト登山に参加した神崎理事より、今は亡き植村直己氏の登頂を想う話のあと映画の上映となった。

続いて宮城支部が特別展示した山内ピッケルについて、山内氏の略史と解説を柴崎徹会員が行なった。記念講演は、仙台がはじめて

ントの手紙が入っていた。この本は四巻から六巻がどうしてもないらしく、私のところだけしか揃っていないようだ。復刻の話もあったが、文献として読みたいという人がそう多くいるとは考えられず、売れ残って古本屋の店先に並んだのでは発刊者達に申し訳ないからお断りした。

大谷探検隊の報告書『新西域記』は、上下二巻で八〇〇頁に及び、十三キロもある総皮装の立派な本で、高嶺文庫にもなく、欲しいと思っていたが、京都河原町の行きつけの本屋で偶然見つけ入手した。『INAKA』のような難しい買い方をしなければならない本もあれば、通りがかりに偶然見つかる本もある。

最近は、小島烏水、木暮理太郎、藤木九三等の書簡や原稿類、吉田博の版画等を集めているが、いずれも多くならないよう十点程度にとどめようと思っている。

高嶺文庫入手後、集書の噂を聞いて協力してくれる人が出ている。島田巽さんにはエルゾーグとレビュファーの署名本と烏水展のパンフレットを載いた。吉永定雄君からはデヴィット・パイの書いたマロリーの伝記を載いた。それにはレイモン・グリーンの蔵書票とマロリーの手紙（パーティの誘いに対する礼状）が入っていた。阿部恒夫君からは日本山書の会が発行する私家本、限定本等のニュースをこまめに連絡してもらっている。こうした協力者が増え、山の本が山の本を呼ぶ幸せを感じている。

蔵書を見に来て載いた方々の懐しい思い出も多い。最初は大阪の坂戸勝己さん。次いで日本山書の会の会員十数名。松本高校山岳部先輩の沼野洋一さんと初見一雄さん達。近藤信行さん、島田巽さんにも早い時期において頂いた。成瀬さんも九年ほど前にお見えになった。外国では、ディラン峰の因縁で友情を結んだハンス・シェルやマライーニさん、中国登山協会の史占春、許競のお二方もおいでになった。

＊

その後、高嶺文庫入手の顛末及びその整理に『世界山岳百科事典』と『アルプ』一八九号をもとに三千枚ほどのカードを作り、入手済本のカードを別に移し、残ったカード七六〇枚分の本を探すという消去法による収集や、移動棚設置等保管上の話が続いた。

出席者　三十六名

山岳図書を語る夕べ　（滝川　清）

という関西支部の重広恒夫氏が紹介され、カンチェンジュンガのスライドを上映しながら行なわれた。午後五時三十分晩餐会場のホテル仙台プラザ松島南の間に移り晩餐会がはじまった。佐々会長の挨拶では仙台での学生生活や登山、日本山岳会入会等の想い出や今後の抱負がのべられた。続いて東北ブロックを代表して伊達宮城支部長が歓迎の挨拶を行なった。

乾盃の音頭とお話は山形支部名誉会員の後藤幹次、宮城支部の、本年九十五歳の平沢亀一郎の両大先輩が元気に盃をあげられた。

懇親会がはじまり記念演奏として岩手支部の本田宏彦会員の「アルパの夕べ」、中南米の音楽を聞きながら盃を重ねた。宴なかば北海道支部等の祝電と各支部、会員よりの御祝儀が披露された。宴は宮城支部佐藤義正会員による民謡「さんさ時雨」で盛り上がる。

賑やかなテーブルの名は「姫神山」「五葉山」「白神山地」「森吉山」「白鷹山」「祝瓶山」「猫魔ケ岳」「大滝根山」「七ツ森」「太白山」と標高こそ低いが味わいのある山名である。

民謡の合間に田口副会長のお話と東京より参加された会員の紹介があり、続いて各支部長より近況報告がなされた。また、本部から神崎理事による会務報告とこれまでの記念晩餐会の報告があった。飛び入りの民謡等もあり楽しいひとときがすぎてゆき、名ごり惜しい時、岡田秋田支部長の音頭による萬歳三唱、佐藤岩手支部長の御礼の挨拶と閉会の辞があり午後七時三十分無事終了した。

このあと十五階レストランメープルに席を変え、会長、副会長を囲み夜の更けるまで歓談した。

会場風景／撮影・熊谷正志会員

記念晩餐会後の山行に参加して

五月十二日、六時に仙台市役所前に集った皆様は、昨夜遅くまで親交を深めた様子である。車は朝霞の街路樹を通り抜け、二八六号線を西に進む。二十年振りの東北だが、ここも農家の藁屋根が消え、舗装路が続く。遠刈田・青根・峨々温泉の分岐を見過して、旧道に入り笹谷峠で車を降りる。

今日の目的地、神室山一、三五三㍍は宮城・山形の県境尾根で仙台市民のハイキングコース。稜線通しに行くと、しょうじょうばかま、かたくり、きくざきいちりんそうが大振りに咲いている。この辺りは植物が少ないそうだ。雪田が残り、木々はささやき、「魁夷の色ね」と後で感嘆があがる。二つめのこぶで一息入れる。宮城の人は、蔵王は近くの山。朝日は奥の山。飯豊は遠くの山。と親しむそうだ。月山も鳥海も雲の彼方に浮いてみえる。山頂は健脚氏にゆずり引き返す。

峠にもどると、炭火のバーベキュー、たらの芽の天ぷら、しどけ、よぶすま草のお浸し、ホヤの干物は磯の香が散り、雪で冷やした缶ビールのあと口に甘い。地元産米のお弁当、春蘭茶のうすくれないで山頂の饗宴。

「日本山岳会創立八十周年萬歳」の三唱が天に抜ける。

二十時新大阪着。家苞に袋一杯のたらの芽を頂戴し、たのしい旅でした。

（宗實慶子）

図書紹介

入蔵日誌

矢島保治郎著
金井晃編

＊

チベット滞在記

多田等観著
牧野文子編

古いチベットの、ラサに入った日本人は九人ある。有名な河口慧海については、いうこともなかろう。ついで、青木文教と多田等観、この二人も、戦前にその体験などをまとめ、公刊していた。さらに仏法を求めて入った人に寺本婉雅がいた。この人の日記はごく最近に『蔵蒙旅日記』（横地祥原編、芙蓉書房、昭和四十九年）としてまとめられ、その全容がようやくはっきりした。

これら四人の求道者と相前後して、成田安輝と矢島保治郎もラサに入った。前者はある特別の任務を帯びていて、その詳細は明らかにされていなかった。幸い、故松方三郎氏がその旅行の手記を発掘され、「山岳」（第六十五、六十六年、一九七〇～七一年）に『進蔵日誌』として紹介されたことはまだ記憶に新しい。

矢島は異色の民間人として、続けて二度も入蔵した。はじめの四川省から、二度目はインドから。そしてラサに六年間も滞在し、チベット軍の育成、訓練にあたり、チベット女性と結婚し、帯同、帰国した。この二度目の体験は読売新聞（昭和十五年七月十五日から七回）に発表され、のちに同社編『支那辺境物語』（誠文堂新光社、昭和十五年）の中に「東洋秘密国西蔵潜入行」（二十三～五十八頁）としてまとめられた。

戦後になって、石川順著『砂漠に咲く花』（私家版、昭和三十五年）に十二頁ほど紹介されたが、前記の書ともども、稀覯本であるため、矢島はあまり知られていないきらいがあった。名前からして保次郎なのか保治郎なのか、はっきりしなかった。

ここに紹介する『入蔵日誌』は生誕百年記念として編まれたものである。第一部はインドからラサまでの日記風旅行記、第二部は読売新聞からの転載で、ラサ滞在の六年について。第三部は伝記、そして最後に年譜が収録されている。残念ながら、ここにも四川省からの入蔵記が見られないが、原資料がなければ、致し方なかろう。小冊子ながら、編集者の金井氏は好資料を世に送ってくれた。多田等観はラマ教研究のため、

ラサに十年も滞在した。それに基づいて著されたのが『チベット』（岩波新書、昭和十七年、新装版昭和五十七年）であった。入蔵の様子は、ブータンを通り、約三十五日でラサに到着と、序文にたった三行しかない。そこでだれしも思うことは、もっと詳しい話を聞きたいということだったろう。

故牧野文子氏がすでにそれをされていた。昭和三十一年に聞き書きの原稿が出来上っていたという。いかなる事情があったのか知らないけれど、昭和四十二年に著者が逝き、編者の牧野氏も五十八年に旅立たれた。しかし、二人はいいものを遺された。岩波版よりもやさしく、それでいて、その間を埋めてくれる書が、ようやく日の目を見た。

期せずして、チベットの先駆者の二書が書架に並んだが、新しいチベットを知る上にも、貴重な資料となるに違いない。

なお、戦時中に行動していた木村肥佐生と西川一三は、その著書でよく知られているけれど、もう一人の野本甚蔵はどうなったのであろうか。くわしい足跡、記録が知りたいものである。

『入蔵日誌』　昭和五十八年一月二十二日、チベット文化研究所発行、一四七ページ、定価一八〇〇円

『チベット滞在記』　一九八四年四月二十五日、白水社発行、二三〇ページ、定価一八〇〇円

（薬師義美）

●報告

武甲山の自然破壊を視る

自然保護委員会

武甲山はかつて名峰であった。だが、今ではすさまじい自然破壊の姿をさらしている。その姿は悲壮ですらある。恐らく武甲はわが国山岳の自然破壊の原点ではなかろうか。

自然保護委員会では、その自然破壊の現状をつぶさた視察すべく、さる五月十八～十九日の両日にわたり「秩父の自然観察山行」を行なった。

参加者は遠藤委員を中心に十四名。それに地元埼玉県みどりの推進員黒沢和士雄氏の協力のもとにこの武甲登山は実施された。

前日の十八日は、秩父鉄道武州日野駅よりの日野渓谷キャンプ場近くの麟太郎小屋にそれぞれ夕刻までに集合。この麟太郎小屋も地元の協力によるもので、使用は勝手とのこと。夜は地酒「武甲」と山菜のテンプラに舌づつみを打ちながら自然保護を語り合った。

翌十九日も快晴に恵まれた。

麟太郎小屋より沢井、黒沢（和）両氏の車で武甲登山口（浦山口林道終点）まで送って貰い、登山は開始された。この登山道は長者屋敷尾根と呼ばれ、普通は下山道に使うもので急坂である。かなり苦しい登りであるが、そんな中でも目ざとく植物を見つけてその名前の同定に忙しい。さすがは自然保護委員である。

西参道は本年一月より危険となり通行禁止、さらに頂上（？）直下になると他の山では見られない発破退避所が次々に出てくる。これはこのコースだけでも実に六箇所もあった。

御岳神社を経てまず第二展望台へ。

目の前に無惨な自然破壊の現状がさらされた。それはすさまじいの一語に尽きた。

武甲山は昭和五十四年まではまだ頂上が残されていたが、遂に今では完全に山頂は消えてしまった。ああ！　名山消ゆ、と往時を知る委員たちは息をのんだ。

ついで第一展望台へ。

そこに、かつて山頂にあった銅製の展望盤が移され、標高の部分は抹消されていた。かつて武甲山は一三三六㍍の高さを誇り、奥武蔵にあっては抜群、文句なく盟主であった。ところが今やその三角点は神社右奥の小さな鐘楼のすぐ下におろされ、標高は一二九五㍍とされているから、実に四一㍍も低くなり、友峰の大持山とほぼ肩を並べるようになってしまった。

脚下には巨大なパワーショベルがうなり、砂じんを上げている。各委員はそれぞれの思いをこめてこれらの惨状に立ちすくむのみであった。既に二億トンもの石灰岩を採掘したといわれ、これではさすがの武甲山もたまったものではない。

視察後、神社脇で昼食はおにぎり、そして小西委員の背負い上げてくれた大きな西瓜のデザートと豪華なものだった。

下山はシラジクボから橋立川渓谷へ。こちらは一転して武甲前面とは逆にオオルリやホトトギス、ウグイスの声がとどろき、草山吹の色が鮮か、そして自然のままの渓谷美が残されていて、われわれは充分その自然に慰められた。

西武秩父駅でお世話になった黒沢（和）氏に感謝しつつ別れ、一部の委員は武甲の主、清水武甲氏宅へ、他は西武線の車中の人となったが、なかなか有益なる自然観察山行の二日間であった。

参加者・順不同　黒沢和士雄埼玉県みどりの推進員、中村純二、中村あや、国見利夫、中保、小倉厚、斎藤かつら、遠藤光男、関塚貞亨、池田剛、沢井政信、菅野弘章、小西奎二、梨羽時春、黒沢秀雄

（小倉　厚）

スキー安全学会

International Symposium on Ski Trauma and Skiing Safety（スキー傷害とスキー安全シンポジウム）の第六回会議が一九八五・四・二一―二六の間、新潟県苗場で行なわれた。

登山医学シンポジウム

医療委員会

東京医大教授　早田義博会長、当番幹事　関口令安両先生を始め、東京医大の諸先生のお世話のもとで、第五回日本登山医学シンポジウムが六月八日、九日、上高地西糸屋旅館で五十数名の会員が集り開催された。

本年は、高地肺水腫・高山病、登山一般、低圧・寒冷環境、高所環境、低酸素、環境変化等の六部門、十八演題が活発に討論された。そのうち、低酸素状態下の生理学的事項や無酸素登山の後遺症の問題は、今後高所登山に対する

スキー安全学会

本会はスキーの安全を研究する医学者、工学者の集りで、スキーの組織とは無関係であり、発表された論文は日本山岳会々員にも参考になることが多くあったので、その一部を紹介する。

○ドイツでは雪崩に埋没した人を発見するための小型送受信器が用いられている。小型のトランジスタラヂオ程度の大きさで、各人が携行し、雪崩に埋ったときに発振する。生存者が受信に切換えて捜索する。

メーカーによって周波数が二種類あり、統一されていないのが難点である。価格は一〇ドル程度である。

スエーデンではレーダー波を反射する極く小型のダイオード装置が用いられている。反射するだけなので電源が不要なのが緊急時用として実用的であるが、捜索用のレーダーを短時間に現場に到着させる問題がある。ヘリコプターで捜索することも可能で、一個の価格は数ドルである。

○フランスのスキー場は大型化し、相互に往復できるように連続してきたので、事故の救出にヘリコプターを利用する方法がとられた。昨シーズンは一五のスキー場に対して、一基地から出動する態勢とした。保険のシステムを改めたので一回の出動の経費は平均一四〇ドルであった。

○スキーの負傷は、ここ十数年の間に著しく減っている。安全締具に、IAS、Bfuの規格が出来て、製造と調節が正しく行なわれるようになったからであるが、然し負傷が零になったのではない。

IASは脛骨の太さを基本に、Bfuは体重を基準にして、バイオメカニカルな考え方から安全締具の解放のモーメントの大きさを算出している。

然し、骨折や捻挫の起因となる危険な姿勢が持つ力が安全締具に伝達されないと締具の解放は作動しない。このことは当然として理解されるが、靴が柔か過ぎたり、大きくて余裕があったりすれば体が危険な姿勢になっても、その危険な力は安全締具に伝達されなくて締具の解放が作動しないことになる。

このことを含めてIASやBfuは靴の規格を定めている。

靴に問題があり得る場合には安全締具に靴をセットし、試験機でトルクをかけてみるのが確実である。ヨーロッパではスポーツショップに試験機が備えられるようになった。

その試験機の経年変化とキャリブレーションについて発表がなされた。

靴に力を加えると靴が変形するが、力と変形量との間にヒステレシスループが描かれる。この面積はエネルギーであるから脚にとって危険な要素であるが、靴によって大いに異ることが発表された。

登山用のプラスチック兼用靴は歩行のため独特の工夫がなされているが、この点では心配である。靴底の形状などのため、IAS、Bfuの靴の規格に完全に合格するのは無理でも安全が保証されるよう希みたい。

登山靴はIAS、Bfuとは別のものである。

膝の傷害について、関節鏡の診断と十字靭帯断裂の治療等の発表が十題行なわれた。膝の損傷は増えており、然も重症が多い。

膝を深く曲げたとき、筋肉にかかる張力についての研究が発表された。この研究により、曲進系と呼ばれるスキー技術は危険であると思われる。深雪中でこの技術はやらない方がよい。

（松丸秀夫）

スキー安全学会

登山者への医学知識の普及という点で、大変示唆に富む内容であった。次に、「無酸素登山をどのように考えるか」という自由討論会では、山登りに対する究極目的と、医者としての立場―無酸素が生体に与える影響、の二つの立場から白熱した議論が展開された。二つの立場は、基本に立つ視点が全く異なるので、結論は出ないが、早期診断・早期治療が健康維持の上で必要であり、また予防医学という面でいろいろな医学知識が普及してきているように、安全登山の目ざす目的の一つとして、無酸素状態が生体に与える医学的事項を登山者に認識してもらうことが必要であるということについては、大方の意見の一致をみた。

この他には、会長講演として、「ムスタンを訪れて」が、正式許可のもとでの訪問談であり、美しい写真とともに大変興味深い講演であった。何の道でもそうであるが、人から信頼されるということの大切さを感じた。

なお次回は、昭和六十一年五月三十一日、六月一日に聖マリアンナ医大、長尾悌夫教授のお世話で開催される予定である。この会は、医者ばかりでなく、一般登山者も含めて登山医学に興味ある人を対象にしていますので、是非沢山の方の参加を希望します。また過去四回の記録は、登山医学という雑誌にまとめられていますので、是非ご一読をお勧めします。この雑誌は、山岳会事務局で一冊三〇〇〇円で取り扱っております。

（担当理事　浜口欣一）

本会秘蔵フィルム映写会と講演会

フィルム委員会

日時　四月十三日（土）

場所　本会ルーム

・映画　一九二九年「冬のロータン峠」

・講師　三田幸夫名誉会員、宮持優氏（海外協力隊）、細川沙多子氏（デオ・ティバ隊長）

日本山岳会では数多くの遠征記録映画及び個人作品による山岳映画、スキー映画など、貴重なフィルムを保管しております。

これらのフィルムを多くの会員の皆様にご紹介し鑑賞していただきたいと願っております。

恒例の秘蔵フィルム映写会はこうしたフィルムの中より、一昨年六月、名誉会員三田幸夫氏より日本山岳会に寄贈されました、当時最新のミネコダック十六ミリカメラにより撮影された「冬のロータン峠」一九二九年（モノクロ、二十二分サイレント）のフィルムを三田氏の講演の後、鑑賞致しました。

講演は三田幸夫氏はじめ海外協力隊の宮持優氏、パンジャブヒマラヤのデオ・ティバ隊長細川沙多

山の気象と気象学（5、6）

［日時　三月十四日（木）、四月十一日（木）
講師　大井正一氏、場所　本会ルーム］

第五回講座

前回に引続いて雲の分類、大気中の気塊の垂直方向の運動と雲の生成、山の影響の話と豊富なスライドによる説明があった。

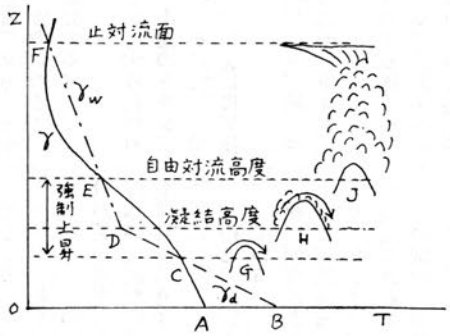
別掲の図は前回からしばしば出てくるエマグラムである。なお使用教科書は『新版気象学概論』。

第六回講座

雲の見方　対流雲は**積雲**Cuと積乱雲Cbの二種である。Cuつみぐも、は底は平らで、頭はドーム状で対流を示している。輪郭がはっきりしている間は過冷却水滴より成っている。これがぼやけてくると氷晶になったことを示し、Cbたちぐも、とする。氷結温度は大体負三〇℃位である。Cuといっても色々あるので、四種、一変種、二補助雲、五付属雲に分けて述べないとはっきりしない。山ではCuの発生、発達の状況をよく見ておくことが雷災防止につながる。

第四章**降水の物理**は大体教科書の通りである。雲中の水滴は、曲率効果、溶質効果、の二つによって飽和蒸気圧が下がり、負三〇℃位までは過冷却水滴のままである。雲粒が出来るには、その核となるエエロゾルが必要である。**霧**は視程一粁以下の場合で、一粁以上の場合、湿ったものを**もや**といい、乾いたものを**烟霧**という。水面上に発生する場合、水の方が高温の場合を**蒸気霧**、低温の場合を、**移流霧**という。温暖前線で、雨が冷気中で蒸発する場合を**前線霧**という。よく晴れた夜には、下層に**放射霧**が生ずるが、山ではしばしば雲海となる。

雨滴のスケールは雲粒と百万倍も違うから、雲から雨が出来る訳ではない。水滴の飽和水蒸気圧は氷晶のそれよりも大きいので、雲中に過冷却水滴と氷晶が共存する場合、水滴は蒸発し、氷晶が急速に成長し雨となる。これをベルシェロンの**氷晶説**という。一方上昇気流により水滴が集まりながら、ゆっくり落下することによっても雨滴は出来る。これをラングミュアの**付着成長説**という。日本の本州以北では殆ど前者で、南では後者も起る。ボンネグートは沃化銀が六方晶系であることから、**人工降雨**を考え、日本でも行なわれている。雪片の結晶形と気温、湿度との関係は、**中谷ダイヤグラム**で示される。ソ連では大砲で雷と雹の防止が行なわれている。**霧氷**は**樹霜**（木花）、**樹氷**（エビノシッポ）、**粗氷**（透明）の三種に分類され、蔵王の**モンスター**は、雪、樹氷、粗氷の合成物である。



出席者　南川金一、斉藤かつら、小田木知江、石井恵美子、長谷田茂雄、星野由希子、重村清、榊原保志、中村純二、深谷諭、林基生、三栖寿生、高橋詢、前野十行、原田衛、城所邦夫、岡田安代

なお、本講座に出席できない人のためにプリントを作ってありますので、プリント代（一〇円切手×回数）に郵送料（六〇円切手二枚）を添えて左記宛にお申込み下さい。

〒165　中野区若宮三ノ一四ノ一三　大井正一

科学研究委員会

子氏に依り貴重なお話を伺いました。

三田氏の当時のいろいろな想い出話の中で、登山道具のないインドで山行準備に苦労された話、また宮持氏は昭和五十一年及び昭和五十二年のカシミール・ラダックに行かれた時の話を、スナップ写真を回覧しながら解説されました。細川氏の日本女性初のヒマラヤ遠征の苦労、想い出話など映写後三田氏を囲んでしばし懇談し、映写会を終了致しました。

次回秘蔵フィルム映写会にも多くの会員の皆様のご出席をお待ち申し上げます。

出席者　宮持　優、鴫原啓佑、近藤　等、渡辺正臣、斉藤　桂、三枝明徳、早川　滉、平戸孝夫、原謙一、佐山邦彦、山県一雄、金坂一郎、増田洋子、細川沙多子、穴田雪江、内藤俊夫、藁科光雄、坂本正智、織田沢美知子、園部みち子、中村純二、大蔵豊彦、千葉保之、大橋　晋、松家　晋以上二十五名

（藁科光雄）

秋田支部総会報告

昭和六十年度の秋田支部総会は、去る五月十九日午後〇時三十分より、秋田市の労働福祉センターにおいて開催された。

佐々木常務委員の開会のことばに始り、出席並びに委任会員を確認。岡田支部長挨拶の後、支部長を議長に指名し議事は進行された。

⊙昭和五十九年度事業報告
◎昭和五十九年度決算監査報告
◎昭和六十年度事業計画
山行（二十五周年記念山行とし根烈岳、白子森）、会報発行（二回）、その他
◎昭和六十年度予算案
十四万八千円。五十八年以前の未納も再請求。来年度は値上予定
◎その他
二十五周年記念品として絆天を実費配布。創立八十周年記念晩餐会（仙台）参加報告。ブナ・シンポジウムへの協力。その他
◎支部会員確認
五十四名。除籍二名。

以上承諾され、続いて役員改選に入り、懇親会の後、午後六時散会した。

新役員は次の通り（留任）
顧問（柴田均二）、支部長（岡田光行）、副支部長（福田文二）、委員（進藤昭、佐藤兼治、佐々木民秀、中川広三郎、藤原健、北林嘉鶴子、高橋守）監事（柳谷正義、子吉格郎）

（佐々木民秀）

北海道支部総会報告

昭和六十年度北海道支部総会は六月一日、リラの花盛りの街、札幌駅前通り雪印パーラーで開かれた。

先ず橋本支部長の挨拶と、東京の支部長会議報告。続いて、及川議長の采配による議事に移り、昭

和五十九年度収支決算、事業報告。昭和六十年度収支予算、事業計画案が承認され、支部役員は、左記の通り選任された。

続いて、創立八十周年記念晩餐会と記念山行（暑寒別岳）の実施説明が行なわれると、参加申込みが相次ぎ、事務局は嬉しい悲鳴！。支部費納入促進、事業を多く等の要望があった。

このあと懇親会は、伊藤紀克評議員の音頭で乾盃。新集会委員の沢田さんの挨拶や、今西元会長来道山行同行談等で賑やかであった。例によって『鶴』『藤』と続く二次、三次会で帰宅を忘れるほどであった。

◎支部委員

支部長　橋本誠二、副支部長　芳賀孝郎、兼平治水、自然保護　小林　年、辻井達一、会報　高沢光雄、石井忠雅、久保田優一、集会企画　野田四郎、集会　浅利欣吉、柳田涼子、亀井秀子、三浦勝幸、沢田長子、事務局　平野　明、水科行雄、監事　井後幸太郎、木下恵子

◎六十年度事業計画

七月十三日　創立八十周年記念山行　暑寒別岳登山

七月十四日　創立八十周年記念晩餐会　北方圏センター

九月二十八日　観月会

十二月七日　忘年会

六十一年三月　スキー合宿

出席者　三浦勝幸、浅利欣吉、山川力、新妻徹、野田四郎、石崎貞子、柳田涼子、横江一郎、小林年、兼平治水、伊藤紀克、石井忠雅、佐々木喜一、横田春雄、橋本誠二、平野明、沢田長子、亀井秀子、水科行雄、及川敬一、末岡睦

（平野　明）

静岡支部総会報告

静岡支部総会は、六月八日、静岡駅前珠賀美神社社務所で開かれ、昭和五十九年度事業報告、収支決算承認、昭和六十年度事業計画、予算案が承認され、支部役員に新しく二名を加え、前年度に引きつづき選任した。

支部長　山本朋三郎、相談役　尾崎徳郎、西郷正郎、市野　弘、岩永安雄、磯野兼二郎、総務　安間　荘、大石　惇、（東部）田辺恵造、久保田保雄、（西部）鶴見敏彦、坂井八郎　会計　杉本宜明、近藤浩之　行事　望月福次、勝見幸雄、池上和男、河合俊男、山田透、長島吉治、（東部）山口　亮、加田利勝、小林清彦、小島優幸、（西部）中村隆哉、会計監査　西郷正郎、市野　弘

◎六十年度事業計画

一、静岡支部山岳文化講座について

昭和六十年九月七日、十四日、二十一日、二十八日、十月五日毎土曜日　午後二時～四時三十分、静岡市中央図書館視聴覚ホールにて、入場無料

第一日　『登山と文化』講師　千坂正郎、第二日『山の名前の由来』講師　山本朋三郎、第三日『登山と探検』講師　安間　荘、第四日『登山とマラソンの医学』講師　田辺恵造、第五日『ブルーとメスナーの世界』講師　横川文雄の各氏。

二、第二十八回紅葉会について

「お知らせ」の紅葉会案内を参照下さい。

三、その他、

出席者　山本朋三郎、尾崎徳郎、西郷正郎、磯野兼二郎、石間信夫、池上和男、安間　荘、杉本宜明、望月福次、岩永安雄、川森左智子、小島優幸、鶴見敏彦、大石　惇、内田利郎

会務報告

五月理事会

5月7日午後6時30分

場所　本会ルーム

出席者　佐々会長、田口、山田副会長、田村、神崎、大倉、西村、平井、絹川、村木、高遠各理事、岡沢理事代行、松田、竹田各監事、宮下、鴫原、中村各評議員

委任　赤松、河村、松家、鈴木、長谷川、梅野各理事

審議事項

◎八十周年記念事業について

▽募金分科会　ほぼ予定達成見込

▽登山分科会　中国登山希望者多く、四月末で締切った。

▽行事分科会　写真展八月十九日～二十三日開催予定

◎総会について

役員候補者について、前回理事会に提案されたものを一部変更、総会に提案する　承認

総会の議事進行について　了承

◎支部長会議について

五月二十四日十四時より、本会ルームで開催

報告事項

◎自然保護　要望書「祖母、傾山系における原生林の保護と伐採施業計画の早急な見直しについてのお願い」を、農林水産大臣、林野庁長官、熊本営林局長宛に、会長、自然保護委員会委員長、東九州支部長名で提出

◎海外委　委員会委員長に村山雅美氏を選出

◎山研　四月二十七日開所

ルーム日誌　五月

7日（火）　理事会

8日（水）　八十周年記念準備委

9日（木）　科研委気象講座

15日（水）　三水会、会員懇談会

16日（木）　図書委

22日（水）　会報編集委

23日（木）　学生部集会

24日（金）　昭和60年度通常総会（私学会館にて）、支部長会議

27日（月）　フィルム委

28日（火）　自然保護委

30日（木）　学生部集会

31日（金）　科研委

今月の来室者364名

会員移動

物故

4054　金光　正次

8916　桂　重英

1732　青井　竹三郎

退会

1852　周布　光兼

9241　溝尾　良隆

退会

9345　栗原　ひろみ

7181　村瀬　邦夫

八十周年記念事業第二次募金応募者ご芳名

（昭和六十年六月十八日まで、敬称略、順不同）

（六口）平沢亀一郎　（五口）朴鐘徳　（二口）中村　進　種谷由美　原田幹市　藤川三郎　石坂久忠　泉尾忠志　山本治美　二宮澄朗　影山英雄　名須川　浩　田辺卓司　細川俊彦　小林智明　鈴木羊三　大野栄二　永島賢司　麦倉啓　井上　晃　山田武楠

（一口）星野　重　中村誓紀　武庫川女子大学鳴松山岳会　川端信治　亀谷外毅雄　広瀬藤司　山口晶一　垣内雄治　大田譲治　山路

岳夫　高田真哉　西郡光昭　稲葉十四男　山浦源太郎　上田　正　日本体育大学学友会山岳部　近藤久子　綾戸　皎　後藤喜久夫　大内賢治　堀江精三郎　三浦　巌　小島一喜　高木健太郎　関口正次郎　川合　周　田中三郎　小駒山人　仲　徳二　山本光二　小林浩一　池田　進　吉川正幸　島田秀夫　橋村一豊　福嶋一馬　松浦勇次　猪股鎮夫　金光義朗　高村篤生　末岡睦　奥井忠保

応募会員数累計　一六九六名
応募口数累計　四〇九六・五口
金額累計　二〇、四八二、七二三円

お知らせ

☎ 234-6659
この電話でもお知らせしています

◉創立八十周年記念晩餐会（富山）

秋の富山県上市町で富山支部、石川支部共催による講演会、映画会、剱岳の麓―馬場島で晩餐会を次のとおり開催します。翌日は自由山行です。黒部、立山、剱へどうぞお出かけ下さい。

記

日時　九月二十八日（土）午後〇時三十分から
会場　上市町文化会館（富山県中新川郡上市町法音寺一）
Tel. 0764-73-1818　九月開通予定
行事　講演会　午後一時（講師西堀栄三郎氏）、映画会　白い魔の山　ナンガパルバット富山隊撮影、登山用具展示（ナンガパルバット富山隊装備品ほか）
会場移動　午後三時～四時　馬場島家族の森へ
晩餐会　午後五時～七時　馬場島家族の森、宿泊
会費　一〇、〇〇〇円（晩餐会、宿泊費、移動バス代ほか）
九月二十九日（日）は自由山行
申込先　〒930　富山市白銀町二―五　（株）若林商店内
日本山岳会富山支部
（Tel. 0764-23-1148）
日本山岳会（東京）事務局
（Tel. 03-261-4433）

＊

◉紅葉会案内

日本山岳会静岡支部主催の紅葉会も、今年で二八回目を迎えることになりました。

このところ紅葉会は、温泉地から遠ざかっておりましたので、今回は静岡市の奥座敷、深山幽谷の地梅ケ島を選び、温泉につかりながらの酒と紅葉を楽しんでいただく予定です。

前夜祭は河原で各種の酒と山菜料理で歓談し、翌日は日本三大崩れの一つである、大谷崩、八紘嶺、安倍峠に登ります。

湯治気分を味わいたい方は、安倍大滝を眺め市営の温泉施設で半日を過されるのも、また、安倍峠から山梨県側に下られるのも一興かと思います。

実施要綱は次のとおりです。

場所　梅ケ島温泉『湯の華荘』電話　〇五四二六―二二五三　国鉄静岡駅より北へバス一時間半（マイクロバス、自家用車で送迎します）
日時　昭和六十年十一月九日（土）～十日（日）十四時より
集合場所　国鉄静岡駅南口より東約百米の駐車場に十四時集合
宴会　十八時～二十二時
会費　一〇、〇〇〇円
申込み　振替用紙で会費の振込みをもって、正式の参加申込みと致します。締切りは十月十日必着。なお、まことに勝手ながら部屋数に限りがあります。五十名に達し次第締切らせていただきます。
振込先　郵便振替口座　名古屋　九―五〇八五六　日本山岳会静岡支部紅葉会
静岡支部

＊

◉JAC夏の恒例ビアパーティ

日時　九月七日（土）十八時半より
場所　日本山岳会　集会室
会費　二、〇〇〇円
飲み放題食べ放題!!
主催　婦人懇談会

◉八十周年記念式典および晩餐会

日時　八月二十四日（土）午後三時受付開始、午後五時記念式典開会、午後五時三十分記念映餐会開宴
会場　椿山荘「瑞雲の間」（新館五階）東京都文京区関口二ノ一〇ノ八（☎ 〇三―九四三―一一一一）
会費　一〇、〇〇〇円（記念晩餐会費）
なお、当日はネクタイ（クラブタイ）、会員章の着用を極力お願いいたします。

◉科学万博見学

希望者は直接事務局へ申込んで下さい。（集合場所など詳しいことは、晩餐会の日にもご案内します）

◉八十周年記念展

日時　八月二十三日（木）～二十七日（火）十時～午後八時（最終日は午後五時まで）
会場　日本山岳会ルーム
山内、門田の第一号ピッケル、槇名誉会員所有のシェンクのピッケル、故植村直己会員がマッキンリーに残した装備なども展示予定。

◉会員による絵画・写真展

日時　八月十九日（月）～二十三日（金）九時三十分～午後五時（最終日は正午まで）
会場　三菱センター　千代田区丸の内二ノ三ノ一三菱商事別館一階（☎ 二一〇―二五二七）

＊

◉ドイツ山岳劇映画「銀嶺に帰れ」上映予告

一九三四年、ルイス・トレンカー主演・監督のドイツ映画を、九月末か十月初め（正確な日時は後日会報でお知らせします）上映します。上映時間は八十分

総務および海外委員会

受取利息	800,000	747,548	△ 52,452
雑収入	500,000	508,790	8,790
別途会計運用収入		**762,246**	**762,246**
図書出版研究基金運用収入		531,494	531,494
長期計画準備積立金運用収入		230,752	230,752
別途会計取崩収入		**1,400,600**	**1,400,600**
図書出版研究基金取崩収入		1,400,600	1,400,600
小計	**33,840,000**	**37,762,979**	**3,922,979**
前期繰越収支差額	**11,633,412**	**11,633,412**	**0**
前期繰越収支差額	11,633,412	11,633,412	0
合計	**45,473,412**	**49,386,391**	**3,922,979**

一般会計　支出の部　（単位：円）

勘定科目	予算額	決算額	増減(△)
運営管理費	**11,470,000**	**10,973,267**	△ **496,733**
給料・手当	5,250,000	5,145,900	△ 104,100
文具費	100,000	123,440	23,400
印刷費	600,000	466,230	△ 133,770
旅費交通費	500,000	458,090	△ 41,910
通信運搬費	1,000,000	1,061,610	61,610
火災保険料	70,000	60,350	△ 9,650
営繕費	200,000	153,900	△ 46,100

昭和 59 年度収支決算書

自　昭和 59 年 4 月 1 日
至　昭和 60 年 3 月 31 日

一般会計　収入の部　（単位：円）

勘定科目	予算額	決算額	増減(△)
基本財産運用収入	**600,000**	**574,490**	△ **25,510**
基本財産利息収入	600,000	574,490	△ 25,510
入会金収入	**3,000,000**	**2,490,000**	**510,000**
入会金収入	3,000,000	2,490,000	△ 510,000
会費収入	**23,500,000**	**26,629,334**	**3,129,334**
会費収入	23,500,000	26,429,334	2,929,334
終身会費収入		200,000	200,000
事業収入	**5,440,000**	**4,049,971**	△**1,390,029**
広告料収入	1,200,000	1,048,900	△ 151,100
山日記印税収入	560,000	210,000	△ 350,000
その他印税収入	0	61,531	61,531
刊行物売上収入	450,000	504,125	54,125
その他事業収入	2,000,000	995,220	△1,004,780
山研使用料収入	1,230,000	1,230,195	195
寄付金収入	**0**	**600,000**	**600,000**
寄付金収入	0	600,000	600,000
雑収入	**1,300,000**	**1,256,338**	△ **43,662**

振替貯金	東京地方貯金局	495,850
普通預金	協和銀行 市ケ谷支店	1,368,601
〃	三菱銀行 市ケ谷支店	440,976
〃	三和銀行 本郷支店	40,557
〃	東京銀行 本店	1,721
〃	中央信託銀行 本店	567,513
〃	三井信託銀行 新宿西口支店	99,448
〃	日本信託銀行 本店	31,272
定期預金	協和銀行 市ケ谷支店	8,000,000
普通預金	協和銀行市ケ谷支店(図書出版研究基金)	386,160
定期預金	〃 〃 (〃)	6,075,000
〃	〃 〃 (長期計画準備積立金)	5,026,252
〃	〃 〃 (終身会費積立金)	1,000,000
〃	〃 〃 (退職給与積立金)	2,000,000
	合計	25,614,598

3. 建物および土地

(単位：円)

A 事務所および図書室	金額
場所 東京都千代田区四番町5番4 構造 鉄筋コンクリート造，陸屋根，地下1階付5階建 (事務所) 区分所有建物1階部分 103.32 m² 宅地持分 1,124.56 m²×339/10,000 (図書室) 区分所有建物1階部分 55.22 m² 宅地持分 1,124.56 m²×339/10,000	72,720,170
B 上高地山岳研究所	
場所 長野県南安曇郡安曇村上高地国有林 114 い林小班 構造 鉄筋コンクリート造 (一部木造) 1棟 100.69 m²	9,583,808
合計	82,303,978

4. 図書

種類	摘要	冊数
和書	59年度 受入冊数 216冊	5,156冊
洋書	〃 〃 156冊	2,086冊

5. 什器備品

品名	取得年月日	取得価格(円)	所在
大テーブル(2台セット)，チーク材 750×1200×720	48. 7.31	164,200	上高地山岳研究所
ソファーセット，チーク材レザー張	48. 7.31	178,000	〃
冷蔵庫，日立 R 303 T	48. 7.30	148,500	〃
テレビ，サンヨー 20-C 501	38. 7.30	108,000	〃
スクリプトマティック宛名印刷機 M 36	53. 2.10	265,500	事務所
リコピースーパードライ SD-105	53. 2.27	158,000	〃
書庫内移動書架一式，コンパックル	53. 2.10	1,500,000	図書室
応接セット一式，布張イス，テーブル XLE-30	53. 8. 2	218,000	事務所
閲覧用テーブル (2台)，木製	53. 9.28	250,000	図書室
ライティングビューロー，木製	54. 6.23	280,300	〃
テレビ，シャープ CT-2601 (寄贈品)	55. 6. 4	80,000	談話室
ビデオカセットレコーダー，シャープ VC 7000 (寄贈品)	55.12.27	116,000	〃
フィルム収納キャビネット(スチール製)	56. 8. 8	254,000	図書室
図書カード容器 木製3段	56. 9.12	200,000	〃
書棚 木製3段	56.12.22	500,000	談話室
合計		4,420,500	

6. 絵画

題名	種類・号数	作者名	掲載，保管場所
白馬岳	油 A-50	中村清太郎	日本民族資料館
富士山麓	油 A-25	茨木猪之吉	〃
田代池の白樺	油 変形6	中村清太郎	事務所(談話室)

諸税公費	550,000	509,960	△ 40,040
光熱水料費	230,000	237,452	7,452
電話料	320,000	351,011	31,011
会議費	150,000	90,350	△ 59,650
交際費	150,000	278,131	128,131
什器備品費	300,000	34,000	△ 266,000
振替手数料	200,000	257,750	57,750
支部運営費	650,000	628,900	△ 21,100
福利厚生費	100,000	87,018	△ 12,982
事務所管理費	600,000	566,100	△ 33,900
その他管理費	350,000	343,200	△ 6,800
雑費	150,000	119,875	△ 30,125
事業費	**21,731,000**	**22,421,788**	**690,788**
出版費	9,233,000	8,389,407	△ 843,593
図書費	650,000	2,031,910	1,381,910
調査研究費	910,000	646,615	△ 263,585
指導費	1,240,000	794,483	△ 445,517
支部関係費	1,000,000	1,188,990	188,990
海外諸関係費	170,000	339,080	169,080
山研運営費	1,678,000	1,643,181	△ 34,819
その他事業費	1,600,000	2,436,760	836,760
印刷費	980,000	718,250	△ 261,750
通信運搬費	3,900,000	3,891,040	△ 8,960
光熱水料費	370,000	342,072	27,928
借入金返済支出	**3,312,000**	**3,311,904**	**△ 96**
借入金返済支出	3,312,000	3,311,904	△ 96
別途会計繰入支出		**1,562,246**	**1,562,246**
別途会計繰入支出		1,562,246	1,562,246
予備費	**1,000,000**	**0**	**△1,000,000**
予備費	1,000,000	0	△1,000,000
小計	**37,513,000**	**38,269,205**	**756,205**
次期繰越収支差額	**7,960,412**	**11,127,186**	**3,166,774**
次期繰越収支差額	7,960,412	11,127,186	3,166,774
合計	**45,473,412**	**49,386,391**	**3,922,979**

別途積立金 昭和60年3月31日現在

(単位：円)

内訳	前期繰越	繰入収入	取崩支出	次期繰越
終身会費積立金	800,000	200,000	0	1,000,000
図書出版研究基金	7,330,266	531,494	1,400,600	6,461,160
長期計画準備積立金	4,195,500	830,752	0	5,026,252
退職給与積立金	2,000,000	0	0	2,000,000
合計	14,325,766	1,562,246	1,400,600	14,487,412

財産目録

昭和60年3月31日現在

(資産の部)

1. 基本財産

(単位：円)

種類	預入先	金額
貸付信託	三井信託銀行 本店	2,380,000
〃	日本信託銀行 本店	420,000
〃	中央信託銀行 本店	5,200,000
	合計	8,000,000

2. 現金および預貯金

(単位：円)

種類	預入先	金額
現金		81,248

事業収入	会費収入	25,000,000	23,500,000	1,500,000
	終身会費収入			
		4,980,000	**5,440,000**	**△ 460,000**
	広告料収入	1,200,000	1,200,000	0
	山日記印税収入	0	560,000	△ 560,000
	その他印税収入	0	0	0
	刊行物売上収入	450,000	450,000	0
	その他事業収入	2,000,000	2,000,000	0
	山研使用料収入	1,330,000	1,230,000	100,000
寄付金収入		**0**	**0**	**0**
	寄付金収入	0	0	0
雑収入		**1,300,000**	**1,300,000**	**0**
	受取利息	800,000	800,000	0
	雑収入	500,000	500,000	0
小計		**34,430,000**	**33,840,000**	**590,000**
前期繰越収支差額		**11,127,186**	**11,633,412**	**△ 506,226**
	前期繰越収支差額	11,127,186	11,633,412	△ 506,226
合計		**45,557,186**	**45,473,412**	**83,774**

2） 一般会計 支出の部 （単位：円）

勘定科目 大科目	勘定科目 中科目	予算額	前年度予算額	増減（△）
運営管理費		**12,770,000**	**11,470,000**	**1,300,000**
	給料・手当	5,450,000	5,250,000	200,000
	文具費	100,000	100,000	0
	印刷費	1,500,000	600,000	900,000
	旅費交通費	550,000	500,000	50,000
	通信運搬費	1,000,000	1,000,000	0
	火災保険料	70,000	70,000	0
	営繕費	200,000	200,000	0
	諸税会費	550,000	550,000	0
	光熱水料費	250,000	230,000	20,000
	電話料	400,000	320,000	80,000
	会議費	150,000	150,000	0
	交際費	150,000	150,000	0
	什器備品費	100,000	300,000	△ 200,000
	振替手数料	200,000	200,000	0
	支部運営費	650,000	650,000	0
	福利厚生費	100,000	100,000	0
	事務所管理費	600,000	600,000	0
	その他管理費	600,000	350,000	250,000
	雑費	150,000	150,000	0
事業費		**21,192,000**	**21,731,000**	**△ 539,000**
	出版費	9,200,000	9,233,000	△ 33,000
	図書費	650,000	650,000	0
	調査研究費	620,000	910,000	△ 290,000
	指導費	1,290,000	1,240,000	50,000
	支部関係費	1,500,000	1,000,000	500,000
	海外諸関係費	170,000	170,000	0
	山研運営費	1,692,000	1,678,000	14,000
	その他事業費	700,000	1,600,000	△ 900,000
	印刷費	1,000,000	980,000	20,000
	通信運搬費	4,000,000	3,900,000	100,000
	光熱水料費	370,000	370,000	0
借入金返済支出		**3,312,000**	**3,312,000**	**0**
	借入金返済支出	3,312,000	3,312,000	0
予備費		**1,000,000**	**1,000,000**	**0**

群猿	墨絵	石井 鶴三	図書室
伊豆半島	油 — 10	茨木猪之吉	〃
針の木峠	油 — 10	茨木猪之吉	〃
徳本峠から穂高連峰	墨絵	石田 吟松	〃
初冬の両神山	油 — 10	茨木猪之吉	〃
鳥（カット原画）	墨絵	石井 鶴三	〃
メールドグラス	エッチング		〃
モンブラン	〃		〃
後立山連峰	水彩	中村清太郎	〃
カンチェンジュンガ	エッチング	シュラギントワイト	〃
ユングフラウ（1966年作）	油	山里 寿男	事務所（集会室）
涸沢より北穂高	水彩 — 6	山里 寿男	図書室
槍ケ岳初夏	油 — 10	中村清太郎	事務所（集会室）
カンチェンジュンガ	パステル	矢崎千代二	事務所（談話室）
北穂高滝谷	油 — 25	足立源一郎	〃
或朝の槍ケ岳	油 — 25	足立源一郎	図書室
北穂高岳主峰	油 — 25	足立源一郎	事務所（談話室）
槍ケ岳	油 —P 8	足立源一郎	上高地山岳研究所
タンボチェの僧院	水彩 — 4	清野 恒	事務所（集会室）
シェルパニの親子	水彩 — 4	清野 恒	〃

※ 他の絵画，写真 省略

7. フィルム

「マナスルに立つ」 他 62 点

8. 刊行物・服飾品棚卸現在高 （単位：円）

摘要	金額
刊行物（山岳，山岳覆刻版等）	1,386,510
服飾品・その他（ネクタイ・ペンダント・トレーナー等）	2,518,000
合計	3,904,510

（負債の部）

・長期借入金 未済残高 ¥ 8,352,665

ア 借入先 中央信託銀行株式会社本店

イ 利率 年利 8.16%

ウ 担保 事務所および図書室の建物と土地を担保として差入れる。

エ 返済年月 昭和 63 年1月まで

・退職給与引当金 ¥ 2,000,000

社団法人 日本山岳会 昭和 59 年度収支決算書および財産目録を監査し，正確妥当なことを認めます。

昭和 60 年4月 11 日

社団法人 日本山岳会
監事 松田雄一
監事 竹田寛次

昭和 60 年度 予算書（案）

自 昭和 60 年4月 1 日
至 昭和 61 年3月 31 日

1） 一般会計 収入の部 （単位：円）

勘定科目 大科目	勘定科目 中科目	予算額	前年度予算額	増減（△）
基本財産運用収入		**600,000**	**600,000**	**0**
	基本財産利息収入	600,000	600,000	0
入会金収入		**2,550,000**	**3,000,000**	**△ 450,000**
	入会金収入	2,550,000	3,000,000	△ 450,000
会費収入		**25,000,000**	**23,500,000**	**1,500,000**

桜井信雄（本　会）
6 月 1 日　講演会「ザイルとの 30 年を振り返る」
石岡繁雄（　〃　）
6 月 23 日　第 4 回日本登山医学シンポジウム
（駿河台　日大講堂）
10 月 27 日　シンポジウム「ヒマラヤのエコロジー」
川喜田二郎（渋谷勤労福祉会館）
11月 10,11 日　紅葉探索山行　近田文弘（山梨　上徳間）
1 月 25 日　映写会「K₇ 初登頂と氷河調査」他
（本　会）
11 月～3 月　山の気象講座　大井正一（本　会）
2 月～3 月　セミナー“やさしい気象”
前野十行（　〃　）

(3) 講　習　会
4 月 6～8 日　山岳スキー技術講習会　（守門岳）
6 月29～7 月 1 日　岩登り講習会（学生部主催）　（小川山）
8 月 11,14 日　小川山フリークライミング山行　（　〃　）
10月 21,22 日　岩登り講習会（指導委，青年懇談会主催）　（伊豆　城ケ崎）

(4) 展　覧　会
2 月 2 日　第 22 回この一本展　（本　会）

(5) 全国にある 19 支部ではそれぞれ集会，研究会，講演会，山行（海外登山も含む）等が活発に行なわれた。
4 月 21,22 日　日本山岳会東北支部ブロック集会
（福島　土湯）
10 月 13 日　本会創立 80 周年関西地区記念晩餐会
（関西支部，山陰支部　大阪第一ホテル）
11 月 17 日　本会創立 80 周年中部地区記念晩餐会
（信濃支部，山梨支部，静岡支部，岐阜支部，東海支部　名古屋郵便貯金会館）
3 月 3 日　本会創立 80 周年九州地区記念晩餐会
（福岡支部，東九州支部，熊本支部　西鉄グランドホテル）
11月 10,11 日　第 27 回紅葉会　（浜石岳）

2. 登山施設の改善その他登山のための適切な事業
上高地山岳研究所を 5 月～11 月まで開所
山の科学に関する文献目録の作成
登山に関する図書，フィルム，スライド類の充実と目録作成
女性登山史のための資料作成
集会，青年懇談会，婦人懇談会，高所登山，図書，自然保護，海外，科学研究，指導，医療，フィルムの各委員による研究会開催

3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画及び指導
各大学山岳部による夏山診療所開設
（槍ケ岳，五色沼，唐松，三俣山荘，白馬岳，合戦小屋，立山，尾瀬）

4. 自然保護活動の推進
環境庁との連携を密にし国立公園における山岳地の自然保護への協力
日高縦貫道路の反対活動
フィールドマナーノートⅡ作成検討
自然保護に関する要望，現地視察，情報収集
日本自然保護協会自然観察指導員資格取得講習会受講（委員会メンバー有志）
5 月 26,27 日　奥秩父自然観察山行「武甲山の開発と自然破壊について」　浅見　豊（栃　本）
10月 13,14 日　尾瀬自然観察山行　（四伏山）
12 月 1 日　自然保護全国集会「森林破壊と自然保護」
三島昭男（主婦会館）
12 月 2 日　自然観察会　矢野　亮（自然教育園）
2 月 7 日　講演会「アメリカの山と自然」

	予　備　費	1,000,000	1,000,000	0
小　計		38,274,000	37,513,000	761,000
次期繰越収支差額		7,283,186	7,960,412	△ 677,226
	次期繰越収支差額	7,283,186	7,960,412	△ 677,226
合　計		45,557,186	45,473,412	83,774

昭和 59 年度事業報告

(59. 4. 1～60. 3.31)

1. 登山の指導と奨励に必要な集会，講習会及び展覧会の開催

(1) 集　会
4 月 12 日　日本山岳会学生部総会　（本　会）
4 月 15 日　会員懇談会現地山行　（箱　根）
5 月 18 日　支部長会議　（本　会）
5 月 18 日　昭和 59 年度通常総会　（主婦会館）
5 月 19,20 日　丹沢研究会　（丹　沢）
〃　八ケ岳懇親山行　（清泉寮）
5 月 22 日　山菜勉強会　（本　会）
5 月 26,27 日　若葉会山行　（巻機山）
6 月 3 日　ウェストン祭　（信濃支部）
6 月 4 日　翁炭章先生を囲む会　（本　会）
6 月 9,10 日　懇親山行　（会津周辺）
6 月 14 日　定例講演会　シルク・ロードの話
—金子民雄—（本　会）
8 月 8 日　邸在泓先生を囲む会　（国際文化会館）
8 月25～30日　ドイツ山岳会歓迎行事　（本会，他）
9 月 15,16 日　スケッチ山行　（焼　岳）
9 月 20 日　フィルム映写会「ドキュメンタリー エベレスト」1970　（本　会）
9 月 27 日　定例講演会　コルディエラ・ブランカの話　—児玉　茂—（　〃　）
10 月 4 日　アルパインクラブ訪問懇談会　（ロンドン）
10月 6～8 日　鳥海山山行　（鳥　海）
10 月 10 日　ミルツスイス山岳会会長夫妻歓迎会
（国際文化会館）
10 月 10 日　秋山山行　（山形　摩耶山）
10 月 19 日　ドイツ山岳会会長夫妻歓迎会（トレビの泉）
10月 20,21 日　秋山探索山行　（志津倉山）
10月 27,28 日　丹沢研究会　（丹　沢）
11 月 1 日　定例講演会　カタカナの山名・地名・山岳用語　—宮下啓三—（本　会）
11 月 11 日　第 21 回学生部マラソン大会　（皇　居）
11 月 15 日　会員懇談会「伯耆大山からエベレストまで，ラトックⅠ峰の記録」
重廣恒夫（本　会）
12 月 1 日　支部長会議　（本　会）
12 月 1 日　昭和 59 年度年次晩餐会
（ホテルニューオータニ）
12 月 2 日　懇親山行　（丹　沢）
1 月12～15日　スキー山行　（白　馬）
2 月 2 日　第 16 回山岳図書を語る夕べ　（本　会）
3 月 7 日　定例講演会　（吉田宏）（　〃　）
3 月 15 日　第 11 回新入会員のためのオリエンテーション　（　〃　）
3 月 16 日　第 13 回山岳史懇談会　（本　会）

(2) 研　究　会
4 月 20 日　講演会「富士山に沈む太陽」

(ロ) 研 究 会
・登山医学シンポジウム 6月
・高所登山シンポジウム 6月
・気象講座 4～10 月
・シンポジウム「ヒマラヤの生態系（II）」 11 月
・セミナーの実施
(ハ) 展 覧 会
・80 周年記念展覧会 8月
・この一本展（山岳稀覯本） 2月
(ニ) 講 演 会
・登山，山岳の科学研究に関する講演会 本会，その他
・登山医学に関する講演会 11 月
・内外登山家による講演会，映画会 本会，その他
・海外の山に関する講演会

2. 登山施設の改善，その他登山のための適切な事業
・上高地山岳研究所開所 4月～10 月
・登山医学文献集の編集発刊
・山岳と登山に関する科学文献整理
・山に関する貴重なフィルム，スライド，テープ，アルバム等の複製，収集を行なう

3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画および指導
・夏山診療所開設
・技術講習会の開催（冬山，岩登り，スキー等） 現地4回
・雪又は氷上訓練 2月又は3月
・大学山岳部指導者会議の開催

4. 自然保護活動の推進
・自然保護に関する講演会 10 月
・自然観察山行
・自然環境保全及び破壊の現地視察
・ブナシンポジウム 6月
・自然保護全国集会 10 月
・自然保護活動のための研修会
・フィールドマナーノートIIの作成

5. 海外登山の企画および実施
・中国祁連山脈他の登山 7月～9月
・アフリカ，ポーランド，グルジャ山岳会との交流登山

6. 機関紙などの刊行
・「山岳 80 年」発行
・会報「山」478～489 号発行
・「山日記」昭和 61 年版編集発行

7. 国内および国外山岳団体との連絡，情報交換
・国内関係団体（日山協，都岳連，その他）との密接な連絡
・日本ネパール協会の事業に対する協力
・海外登山団体との機関誌および情報の交換

8. その他，目的を達成するために必要な事業
・山岳図書室の拡充を図る
・創立 80 周年記念事業の企画および実施
・その他，目的を達成するために必要な事業を行なう

岡島成行（海外委と共催）（本 会）

5. 海外登山の企画および海外との交流
日本山岳会ボゴダ峰登山隊による中国ボゴダ峰登頂 （7月～9月）
日本山岳会カンチェンジュンガ峰登山隊によるインド，カンチェンジュンガ峰登頂 （1月～6月）
日本山岳会東海支部ガウリシャンカール峰登山隊によるネパール，ガウリシャンカール峰登頂 （8月）
日本山岳会青年懇談会登山隊とアメリカ山岳会アラスカ支部との交換登山 （2月アンカレッジ・バルディーズ）

6. 機関誌などの刊行
「山岳 79 年」号発行
会報「山」466～477 号発行
「山日記」昭和 60 年版編集発行

7. 目的を同じくする外国山岳会等との情報交換
30 ケ国 60 の団体と情報交換
日中合同登山推進のための中国体協関係者と情報交換

昭和 60 年度 事業計画（案）

1. 登山の指導奨励に必要な集会，研究会，講習会，展覧会等の開催
(イ) 集 会
・小集会（報告会，講習会，シンポジューム，山行） 本会，その他 48 回
・ウェストン祭 上高地 6月1日～2日
・創立 80 周年記念式典 椿山荘 8月 24 日
・山岳図書交換会 本会 10 月
・マラソン大会 皇居周辺 11 月
・年次晩餐会 未定
・山岳図書を語る夕べ 本会 2月
・山岳史懇談会 本会 3月
・来日外国登山家との交歓会 本会，その他 未定
・フィルム映写会 本会 6月，11 月
・新入会員オリエンテーション 本会 3月
・ドイツ山岳映画会 7月
・アイスクライミング講習会 2月

図書受入報告

図書委員会

昭和 60 年1月分受入図書（つづき）

7. 小樽赤岩ルート研究会編「赤岩 小樽赤岩山 クライミング・ガイドと登攀史」小樽山岳連盟 1984（戸谷薫氏寄贈）
8. 岳蜂会編「岳蜂 三十年のあゆみ」1984（白石田春治氏寄贈）
9. 浅輪幸久 山浦源太郎編「1973 年 アンナプルナ一峰」日本山岳会信濃支部 1984（版元寄贈）
10. 荒川久治 栗田貞多男著「日本の秘境北アルプス 高瀬渓谷」春秋社 1984（版元寄贈）
11. 楠目高明著「万葉の山旅」草思社 1984（版元寄贈）
12. 現代山岳紀行編集室編「とっておきの山」山と渓谷社 1984（版元寄贈）
13. 現代山岳紀行編集室 山下喜一郎編「現代山岳紀行 槍，穂高連峰」あるっく社 1981（山と渓谷社寄贈）
14. 現代山岳紀行編集室 山下喜一郎編「現代山岳紀行 続槍，穂高連峰」あるっく社 1981（山と渓谷社寄贈）
15. 現代山岳紀行編集室 山下喜一郎編「現代山岳紀行 剣，立山連峰」あるっく社 1982（山と渓谷社寄贈）

（以下次号）

編集後記 北海道での八十周年記念行事に参加し、家へ戻るとこの会報の校正刷が届いていました。▼暑寒別岳でブヨの大群に襲われた個所に掻ゆみ止めを塗りながら校了にしました。▼でも良い思い出を持つことができました。（岡）

昭和六十年七月二十日発行
102 東京都千代田区四番町五―四 サンビュウハイツ四番町
発行所 社団法人 日本山岳会
発行者 今西寿雄
編集代表 岡沢祐吉
電話東京（261）四四三三
振替口座 東京三―四八二九番
東京都港区赤坂一丁目三番六号
印刷所 株式会社 技報堂